

— 「快適・安心・思いやり 活力あふれる文化創造都市」を目指して—

浅口市総合計画後期基本計画（素案）に関する 意見（パブリックコメント）募集結果の公表

浅口市総合計画後期基本計画（素案）に対する意見（パブリックコメント）募集を行った結果について、ご意見の内容とこれに対する市の考え方などを公表いたします。
貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

募集結果

- 【実施時期】 平成23年12月1日（木）から12月20日（火）
【提出意見数】 11件
【提出方法】 郵送（1）

※ただし、応募対象要件が確認できなかった意見については、掲載しておりません。

〈お問い合わせ先〉

浅口市役所 企画財政部 政策課 電話：0865-44-9013

ご意見と市の考え方

1

ご意見 (素案 P31)	利便性の向上にはパーク&ライドも盛り込み、地球環境の上からもノーカー推進に貢献することが大事なことではないかと思えます。
市の考え方	駅周辺整備については、利便性の向上や都市機能の充実を見据えて整備を進めております。 駅の利便性が向上すれば、公共交通の利用促進にもつながり、環境対策の一環にも寄与するものと考えております。駅の交通結節機能（パーク&ライド等）の強化も含め利便性の向上に努めていきたいと考えております。

2

ご意見 (素案 P32)	横断歩道橋と明記されていますが、高齢化、身障者等を考えた場合、スロープ型として歩道橋か地下道がこれからは必要と考えます。
市の考え方	横断歩道橋については、バリアフリー対応としてエレベーターの設置を予定しております。

3

ご意見 (素案 P37 関連 P86)	これからはネットでの情報交換を進める必要性は大きいと思います。個人として必要であれば、アドレス登録で行政からの広報変更の連絡を受け、早い情報キャッチができます。 将来は、町内会との情報交換も検討願います。
市の考え方	いただいたご意見については、後期基本計画（素案）に掲載している内容をより具体的にした取り組みであるため、第2次情報化基本計画策定及び具体的な施策を実施する上で、参考とさせていただきます。

4

ご意見 (素案 P45)	<p>観光振興には、やはり他の自治体にはない独自性の発想が必要です。特に、山・海を抱える浅口にしかできない事を展開すべきと考えます。</p> <p>他地域からの集客には、遥照・阿部山・海が見える寄島を活用したハーフマラソンを全国に発信することも良いと思います。</p> <p>キャッチフレーズは「日本一の高低差マラソン」寄島をスタートに遥照・阿部山から寄島に戻るコースは魅力があります。</p> <p>浅口特産物を活用したB級グルメの開発</p> <p>寄島の海を利用した、体験型修学旅行生の受け入れの検討</p> <p>未調査の 山城の研究で将来的には、全国山城サミットへの参加も視野に入れながらの観光資源の発掘も必要と考えます。</p>
-----------------	--

市の考え方	<p>浅口市には山・里・海があり、観光振興においてそれぞれが大切な地域の資源であると考えています。ご提案いただいたハーフマラソンについて、「日本一の高低差マラソン」というキャッチフレーズは非常に魅かれるものではありませんが、往復の道中が長くなればなるほど交通規制の問題が難しく、実現は大変困難なものと考えます。ただ、ハーフマラソンの検討を含めマラソン大会自体は現在の体制や運営方式をより良いものとしていきたいと考えています。ハーフマラソンでの地域資源の活用とまではいきませんが、現在、市内全域を対象にトレッキング等のコースを選定し、マップの作成や看板等の整備を行っているところです。</p> <p>この事業で、里山や海を見ながら巡れる浅口の特長を活かしたルートの設定を行うことで資源を活用し、また、別でご提案のありました山城につきましても、マップに掲載する等市外へPRもしていきたいと考えています。</p> <p>浅口市の特産物を活用したB級グルメの開発についてですが、現在、市観光協会や浅口商工会、寄島町漁協等と協力しながら、「寄島かき丼」・「藻貝丼」等の新しいメニュー開発や、手延べ麺を使ったレシピ開発も行っています。今後改良を加えながら、それら特産品をしっかりとPRしていく応援隊の育成にも取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>最後に、寄島の海を利用した、体験型修学旅行生の受け入れについては、寄島町漁協の潮干狩りや底曳網漁体験、浅口市総合型スポーツクラブのシーカヤック教室等いくつか修学旅行の体験プログラムとしてふさわしいものはあります。しかしながら、まだまだ各種団体が試行的に行っている段階であり宿泊施設や安全に指導できる体制整備等課題も沢山ありますので、他の自治体等から情報を収集したいと考えております。</p>
-------	--

5

ご意見 (素案P48)	<p>防災行政無線に付いては距離はバランスよく定点型の屋外スピーカー配置が必要です。支柱には緊急ランプを点灯させることも大事かと思えます。 大字単位で2～3箇所</p> <p>避難救護活動の迅速化をする為に、各地区へ多少の備蓄も必要かと思えます。</p>
----------------	---

市の考え方	<p>浅口市では、現在市内全域に情報伝達可能なデジタル方式の防災行政無線の整備を計画中です。今後、東日本大震災の教訓や先行事例を参考にしながら整備計画を検討し、防災効果の高い施設を構築したいと考えております。</p> <p>また、備蓄につきましては、現在、毛布や非常食、非常用簡易トイレ等を市で計画的に実施しております。ご指摘の地区での備蓄につきましては、各地に設立されております自主防災組織の取組みとして支援しているところです。</p>
-------	---

6

<p>ご意見 (素案 P52)</p>	<p>横断歩道へは歩行者が渡り易いように、車が自主的に停車することが大事であります。そのために、横断旗の整備とポールを立て歩行者が渡る事をドライバーにいち早く知らせる簡易表示灯も必要と考えます。</p> <p>高齢社会で一人暮らしが増加する中、近所のふれあい見守りは大事です。しかし、終日の見守りは不可能です。一人暮らしの方の安全・安否を確認する為の安全灯は(異常時点灯)は必要なことだと判断します。</p>
市の考え方	<p>浅口市では、歩行者の安全確保等のために、街頭活動や広報紙によりドライバーの注意喚起など交通安全の啓発に継続的に取り組んでおります。また、地域貢献活動の一環として寄贈された横断旗を、地域からのご要望により配付し、交通事故未然防止に役立たせていただいています。これらの施設や備品を大切かつ積極的に活用し、限られた予算の中で市民皆様の交通安全対策がいつそう進展しますよう、安全安心のまちづくりに努めてまいります。</p> <p>高齢化率の一層の上昇が予測される中、ご指摘のとおり高齢者等の安全確保への取り組みは一層重要となっております。この課題に対応するため、浅口市ではひとり暮らし高齢者等の緊急時に迅速かつ適切な対応を図るとともに、日常生活の不安の解消を図るために、緊急通報装置の貸与等を行う緊急通報システム事業を実施中です。</p>

7

<p>ご意見 (素案 P65 関連 P76 関連 P78)</p>	<p>高齢化の社会で大切な事は、寝たきり防止或いは要支援者の減少が望まれます。その為に、シルバーの方はもちろん、仕事をリタイアされた方へ、積極的に一人一学習・スポーツの推進の支援が必要かと考えます。それに向けて軽スポーツの準備も検討すべきと思います。</p> <p>現状はGGとGBそれから卓球等ありますが、まだまだ シルバー向けを検討推進すべきと思います。現在はニュースポーツが沢山あります。</p> <p>何か一つは出来るスポーツが見つかるのではないのでしょうか。体力増進は医療費抑制になります。</p>
<p>市の考え方</p>	<p>ご指摘のとおり、現在ニュースポーツはその種類も数多く存在し、難易度も多岐に渡っており、スポーツ初心者でも気軽に参加できる競技がたくさんあります。</p> <p>しかし、競技備品はいまだに高額なものが多く、教育委員会事務局で取り揃えることは困難です。これまでスポーツをしてこなかった方々にまず興味をもっていただけるよう、機会を捉えて医療費抑制にも繋がるニュースポーツを市民の皆様にご紹介するなど、きっかけ作りをし、普及啓発に努めていきたいと考えております。</p>

8

<p>ご意見 (素案 P79)</p>	<p>各町資料館はありますが、展示品観覧の人は稀です。各資料館自体展示品も似たり寄ったりであり、特徴がありません。浅口以外の方が興味を抱くような資料館づくりが必要です。それには寄島は海洋展示を主体として、金光・鴨方は統合して、細川守護代を主体にした「歴史博物館」を新設し、「西山拙斎」「小野光衛門」コーナーも必要です。</p> <p>場所は長川寺横の旧鴨中テニスコート跡が最適です。</p> <p>今の資料館のままでは、価値観が見いだせません。</p> <p>空いた図書館スペースは 中央図書館として郷土史等の資料を充実させていくべきと考えます。</p>
-------------------------	---

市の考え方	<p>今回ご意見をいただいた趣旨は理解しますが、歴史博物館の整備は予定しておりません。既存の市立資料館3館は、各地域の貴重な歴史資料等を収集・保存し、後世に確実に伝えることに重点をおいております。3館で人物等の巡回の企画展示等を開催し、連携を図り、資料が利・活用していただける施設となるよう検討をすすめてまいります。</p> <p>鴨方図書館には、現在、カウンター付近と参考閲覧室に郷土資料を置いております。郷土資料のより一層の充実を図るにはどのようにすればよいか、今後、検討していきたいと思っております。</p>
-------	---

9

ご意見 (素案 P80)	山城はまだ未調査がほとんどです。行政と市民が一体となって保存活動することで、歴史の町浅口の価値感が高まります。
市の考え方	<p>今回ご意見をいただきました山城の調査については、現在市内の山城は、16箇所あると理解しています。</p> <p>これまでに数ヶ所は、現地踏査や出土遺物の整理作業等の調査を実施しています。金光町内では、金光町史編纂時に縄張り図等の山城の資料化を行い、情報を蓄積しています。平成20年度には、佐方城跡や須恵竜王山城跡で現地調査はしております。</p> <p>市内の山城については、必要な場合、調査をしたいと考えています。</p>

10

ご意見 (素案 P87)	<p>まちづくりを担う市民組織の充実には、人材発掘が非常に重要であり、お互いの持っている能力の共有化が必要です。その為に個々人の持っている能力、やりたい事などをバンクに登録し、行政は必要に応じて紹介などして組織化の支援ができます。</p> <p>例えば 歴史の趣味があっても 趣味を共有できる人は 個人では探す事に限界があります。</p>
-----------------	---

市の考え方	<p>今回ご意見をいただきました人材バンクについては、市社会福祉協議会内にある市ボランティア・NPO活動支援センターにおいて制度化されています。この制度は、ボランティアをしようとする市民の方に特技や趣味を登録していただき、ボランティアを必要とする方とのマッチングを行うものです。</p> <p>また、学校支援の人材バンクとしては、学校支援ボランティア事業を市教育委員会事務局生涯学習課が担当しており、学校の要請に基づいてボランティア講師の派遣を行っております。現在、公民館講座の修了生など約200名の方にご登録をいただいている状況です。</p> <p>なお、「趣味の共有」については、任意団体の市文化連盟や各町文化協会の各部において様々な活動が行われていますので、市教育委員会事務局文化振興課へお問い合わせいただければ、活動のご紹介をさせていただきます。</p>
-------	---

11

ご意見 (素案P91)	<p>財源厳しい低成長時代の中、やはり市民全員で痛みは分かち合わなければなりません。高齢者の無料化は見直しが必要です。75歳以上が無料とすべきことも検討課題ではないでしょうか。</p>
市の考え方	<p>使用施設等の設置目的等を踏まえて、受益者負担の適正化を図りながら、今後も健全財政維持のため自主財源の確保に努めてまいります。</p>